

野鳥観察日記

チュン子のひとりごと

雀 チュン子

私は雀（※一）の「チュン子」。名前はバーバがつけたの。私の父は「チュン吉」。母「ピヨ」の長女よ。どうして雌って判るのかって？

だって雄だと両親はすぐ子別れすると思うの。

私は「一緒に居たい！」とゴネて、両親もまあいいかと許してくれたの。人間社会と同じよ。好きな相手もいないしね。

時々両親と行動するけどこの頃はほとんど単独行動なのよ。親べったりでは素敵な相手も見つからないからって、親心なのね。

ジージとバーバが移住してきて、ジージが給餌台を作ってくれた三年前からお世話になっているの。私も早くお婿さんを見つけないとね。

去年の春には、三組の雀のつがいから六羽の子雀が誕生したのよ。バーゴラや白樺の木に止まっている子雀に、母さん雀が口移しで給餌台のえさ

をやっているの。嘴がまだ黄色く、まるまるとしていて、産毛が残っているような子雀が、えさをねだって羽を震わせている仕草は、可愛くて見えて飽きないって、チュン子もああいうときがあつたのねって、ばーばが言ってたわ。

今年も春に、やはり三組のつがいから七羽の子雀が生まれたわ。五月の中頃にチュン・チュンとうるさく鳴き合っていたと思つたら、（恋の季節よね。）いつの間にか親鳥が頻繁に餌台にやってきては、ビューンと何処かに飛んで行くのよ。バーバが何処に巣があるのかと目で追つていくと、一羽は道路の除雪用の路肩表示ポールの中。もう一羽は近所のカーポートの中。もう一羽は途中で見失つたって。

今は昔と違って巣を作る軒もないし、雀も住宅難で困っているのね。ジージがかわいそうだからとバーゴラの上に巣箱を作ってくれたのよ。子雀が遊んでいて、中に入ったこともあるけれど、興味がないらしいのよ。バーバが、

「チュン子は何処に住んでいるんだい」

と聞くけれど、内緒なの。早くお婿さんを見つけてこの巣箱に入りなさいと言うけれど、巣箱は

今いちなの。ジージが違う場所に移さないと駄目かなと言っていたけれど、雀は巣箱には入らないと思うの。ジージには悪いと思うわ。

六月の中頃にジージが、

「オーイ、一寸来てみる」

と呼ぶから、バーバが何事かと行ってみると、窓越しに見えたのは農作業用の一輪車の上に止まっている白セキレイ(※二)の赤ちゃん。

白セキレイのお母さんが畑から虫を啜えてきては、口移しでえさを与えているのね。まだ羽の黒い部分が薄茶のかかったねずみ色で、大きさはもう親と同じよ。雀と一緒に親の後を追っては餌のおねだりをしてたわ。

春先からバーバの畑に足早にツツと走り、尾羽を上下に振りながら虫を探している白セキレイのオバサンを、チュン子たちも時々見かけたわ。

きれいな声でチュイリーチツチと鳴いていたものよ。ジージがね、白セキレイは、車を駐車して、二、三日留守にしているとボンネットの中に巣を作ることもあるんだって。あまり人間を警戒しないのね。バーバがそばに近寄っても逃げなくて、「可愛い！」

って言っていたわ。

それから、春先にずんぐりのメタボおじさんが餌台にやってきて、チュン子より大きい怖かったけれど、そのうち仲良しになって時々チュン子とモーニングやランチを一緒にしたの。バーバがね、シメ(※三)のオジサンだよって教えてくれたわ。そういうえば、秋になってからまだ会っていないわね。

ランチと言えば、今年は特別ランチがあったのよ。五月の末にカツコウ(※四)が鳴いたので、バーバがニンジンを植える土を耕していたら、ネキリムシがニョツキリと出てきたので、

「ハイッ！チュン子。今日は特別おフランスのランチよ」って、餌台に載せてくれたの。

その内に、畑のあちこちからポロポロと出てきて、花鉢の皿に十二匹もよ。

「来年まで食べられない特別ランチだからね、よく味わって食べるのよ」

バーバは言うけれど、はじめは無中で食べたけど、食べきれなくて友達を呼んだわ。皆でぺろりよ。やわらかくておいしかったわ。

バーバが子供の頃、バーバのバーバと畑に連れ

られて行つて、この虫を見つけると、ポイツとバーバの前に投げてよこすんだつて。これを見てキヤアキヤア言つて遊んだ思い出があるんだつてよ。バーバがカブトムシの仲間の幼虫ではないかしらつて、一〜三年位の幼虫で、大きさが違うんだつて言つてたわ。

農薬を散布しないから虫さんも安心なのねきつと。又来年春まで楽しみにしていきましょう。

それからカワラヒワ(※五)のお兄さんが、春から秋にかけて、時々餌台に来たけれど、羽に黄色いすじが入つて伊達男つて感じかな。それとハシ細カラス(※六)のカー助が、時々大きな体して餌台に首を突っ込むの。バーバが部屋の中から窓をドン！と叩くと逃げるのよ。カーカーつて電柱の上で、胸を膨らませ、尾を振つて鳴いていたわ。カー助の餌なんて無いのにね。余程お腹が空いていたのね。

そうそう黒いと言えば、世にも恐ろしい出来事があったのよ。抜き足、差し足、忍び足の忍者のような黒猫のドラが、餌台に登つてきたのよ。

以前に、ジージが仲間の雀を啜えて逃げるドラを見たんだつて。それからジージもバーバも時々

部屋の中から餌台を監視してくれているのよ。

七月だったかしら、ジージがね、大声でまた黒だ！と言つてバーバにバトンタッチよ。サンダルをつっかけるかつっかけないかで外に飛び出して、「コラッ！ドラ」つて。

ドラもびっくりよ、逃げたわ、逃げたわ、裏の道をい一目散よ。バーバも昔バスケットで鍛えた脚(余り関係ないか・・)で追いかけたわ。

はあはあ言いながら戻つてきたバーバは、ドラが道路の真ん中で、「ここまでおいで」と言わんばかりに立ち止まつて、フン！というような顔をしてるんだつて。もう悔しいつて。チュン子も黒ドラには気をつけるのよつて言つてた。ああ！くわばら、くわばら命拾ひしたわ。

去年も今年も春からいろんなことがあつたけれど、去年の冬には、ヒヨドリ(※七)のお兄さん・お姉さんが四羽も来て、ジージがリングゴを四つに切つて木や柵に置いたり、刺したりしておくつてぐに見つけて、騒がしく鳴きながらあつという間に食べつくしてしまふのよ。五ケで四百九十八円よ。バーバが家計に響くからつて、三個で打ち切りにしたの。だつて切がないんだつて。そう言わ

れるとチュン子も肩身が狭いなあつて言ったら、
「チュン子は別だよっ！」

て言ってくれたんだ。ありがたいわね。

時々、シジユウカラ(※八)のお姉さんが来て、
話をするんだけど、近頃町で余り雀を見かけなく
なったって、人間社会では噂になっているらしい。
でも、そんなことは無いよねって。

バーバもね、一度散歩がてら、歩いて郵便局ま
で行ってきたら、大きなオノコの木のあるお宅が
あつて、町中の雀が集まったんじゃないかって思
う位、ガヤガヤ、チュンチュンと何やら大会議中
であつたと。まだまだ鹿追にはチュン子の仲間が
大勢いるねえと言っていたわ。バーバも安心した
みたい。

毎年、若い雀達が群れで行動しているのね。
チュン子みたいに、両親と居たり、単独行動して
いる雀はめずらしいってバーバも言ってたわ。

去年の秋から冬の初めに、畑のアカザやシソ科
の草の実を食べに二百羽位の団体さんが来ていて、
飛び立つときは、波のうねりのような飛び方をし
て、遠くから見たら大ききさといい、羽の色といい
雀にそっくり。バーバが、双眼鏡で見たら、額の

赤い色が特徴のベニヒワ(※九)さんの団体だった
そうよ。又、今年も逢いたいなあ。

今年の春には、アカゲラ(※十)のおじさんが、
何度もやってきて桜の木をコツコツ。まだ細い木
なのね。ジージが、

「オイオイやめてくれ、穴を開けないでくれ
よ」っていつていたっけ。もう冬だから山に帰つ
たのね。

実は内緒にしていたけど、チュン子は結婚した
んです。七月の初めに、バーバの観察によると、
なぜか繁殖期が終わっているのに餌を運んで行く
雀がいるし、その内三羽の子雀を連れて、餌台に
きているし、もしかしたらチュン子かいつて、
バーバが聞いたわ。チュン子も初めての子育てで、
無中だったから、バーバには何も話さなかったの。

子供たちも無事巣立ってくれたし、今は素敵な
夫と一緒に。父や母のようにチュン子もいつも夫
と一緒に行動しているの。この間は、久しぶりに
夫が見守ってくれていたから、ゆっくりランチが
できたのよ。バーバも部屋の中から見ていてくれ
たわね。

五年ほど前に、バーバが鹿追に来る前に、素晴

らしいキレンジャク(※十一)の団体さんに出会ったんだって。もう一度会いたいと思っっているババも、キレンジャクさんはもうあきらめたので、毎日チュン子に会いたいんだって言った。

十月初めから、余り雀を見かけなくなったって、ババが心配して、黒ドラが度々現れるので警戒して餌台にも来ないのかしらって寂しがっていたわね。ジージも、少しは減っているけどあまり餌を食べてないなあと言っていたわね。

でもこれから冬になって畑にも餌がなくなると、又ジージとババに御世話になるので、いつまでも見守っていてほしいの。時々夫と一緒に食べに来ます。部屋の中から見てくださいなね。そして又、声をかけてください。

チュン子

注

※一 スズメ(雀)

スズメ目ハタオリドリ科。大きき十四センチ、雌雄同色。生息環境(市街地、住宅地、集落)、生息状況(基本的に人間の住む場所に生息)、営巣(人家の壁の隙間、換気口、煙突、電柱上部の鉄パイプ、その他建造物の隙間)、餌(穀類、種

子、昆虫、残飯等)

※二 ハクセキレイ(白鶺鴒)

スズメ目セキレイ科。大きき二十一センチ、一部は越冬するが、春々夏の繁殖期に渡来。生息環境(市街地、集落周辺、農耕地、海岸、河川、湖沼、湿原など開けた場所。人間の生活圏に適応)サハリン、南千島で数多く繁殖。セキレイ類の特徴(始終尾羽を上下に振る)鳴き声(チュイリーチツチツチュリー、チツチツチツチュインチュイン)

※三 シメ(鶺鴒)

スズメ目アトリ科。大きき十九センチ、特徴(ずんぐり体形、太い嘴、短い尾)、鳴き声、余り鳴かないが、(チツチツチチーッ、ピツピツイーチチツチキッ)一部越冬するが、春々夏にかけて繁殖期に渡来する。冬期に北方圏からも南下。平地から低山の森林に生息、全道で見られる。市街地近郊の森林、河畔林、防風林、カラマツ林に生息、主に落葉広葉樹林で繁殖。木の種子や昆虫も食す。

※四 カッコウ(郭公)

カッコウ目カッコウ科。大きき三十五センチ、

雌雄同色。雄は繁殖期に高い木の高所に止まり、さえずる。鳴き声（雄はカッコウ、カッコウ、カ、カッコウ。雌はピ、ピ、ピーと鳴く）初夏から夏にかけて農耕地などで聞かれる。盛夏には鳴かない。春〜夏にかけて渡来。生息環境（平地〜山地の開けた林、草原、原野、農耕地、河川敷、人工林）餌（蛾の幼虫を好んで捕食）托卵（オオヨシキリ、コヨシキリ、セキレイ、ホオジロウグイス等多様な種類に托卵する）

※五 カワラヒワ（河原鶉）

スズメ目アトリ科。大きさは十四〜十七センチ。鳴き声（キリリコロコロ、ピーン、コロコロ、チュイチュイチュイ。）地鳴き（キリッ、キリッ、コロコロ、ジュイーン）一部越冬するが春〜夏に渡来。生息環境（全道的に分布、河川敷、草地、農耕地、住宅街の緑地公園など。街路樹、庭木でも繁殖、高木・低木の木の枝で営巣）餌（植物野種子、繁殖期昆虫の捕食）

※六 ハシボソカラス（嘴細鴉）

スズメ目カラス科。大きさは五十センチ。雌雄同色、嘴の細いカラスと撮れるが、時に太い嘴もある。生息（平地から低山の農耕地、市街地、海

岸）サハリンで多く繁殖ゴミ集積場に集まる。

※七 ヒヨドリ（鶉）

スズメ目ヒヨドリ科。大きさは二十七センチ、雌雄同色。鳴き声（ピーヨ、ピーヨピリア、ピリアと騒がしく鳴く）生息環境（平地、山地の森林、農耕地、防風林、公園、市街地周辺緑地、人家の庭）年間を通して見られ、木の実、花芽、花の蜜、昆虫、果実を好む。果実の食害もある。

※八 シジュウカラ（四十雀）

スズメ目シジュウカラ科。大きさは十四、五センチ。鳴き声（ツピツピツピ、ツツピーツツピー）山地の森林、河畔林、防風林、市街地の公園。冬期には大群が南へ漂行することがある。餌（植物種子、木の実、葉の虫）営巣（樹洞やキツツキの古巣にも営巣。巣箱、庭の植木鉢にも営巣する）

※九 ベニヒワ（紅鶉）

スズメ目アトリ科。大きさは十四センチ。通常は群れで見られる。数羽から時に数千羽の大群もある。秋季から冬季に飛来越冬する。生息（平地、山地の森林、農耕地、草原）繁殖（サハリン北部、北極圏のタイガ、ツンドラ地帯では普通に見られ

る。南千島では旅鳥

※十 アカゲラ（赤啄木鳥）

キツツキ目キツツキ科。大きさ二十四センチ、年間を通して見られる。生息（平地から山地の森林、市街地の緑地公園など身近なところにも生息）冬季餌台に脂身を置くと庭にもやってくる。サハリン、国後、択捉、色丹、各島でふつうに繁殖。生木の幹に巣穴を彫る。餌（樹の内部にいる昆虫の幼虫、カタツムリ、木の種子、果実なども食す。

※十一 キレンジャク（黄連雀）

スズメ目レンジャク科。大きさ二十センチ。通常群れで行動。地鳴き（細かい声でチリチリチリ、チーチーチーなど）春秋に道内を通過する旅鳥、又秋季から冬季に渡来し越冬することも。生息（平地から低山の森林）大陸の亜寒帯で繁殖し秋と春に渡来。冬から春に市街地へ現れることが多く、ナナカマドやイボタの実に群がる。特にヤドリギの実を好み、リンゴなどの餌台にも飛来する。）